



## 平成27年度第2回オープンキャンパスを 開催しました

(気仙沼高等技術専門学校)

11月8日、気仙沼高等技術専門学校で、オープンキャンパスを開催しました。

このオープンキャンパスは、同校が実施している3つの職業訓練コース(自動車整備科、オフィスビジネス科、溶接科)の内容を知っていただくとともに、将来、技術を身につけて就職したいと考えている方々に、技術を学べて資格が取れる学校が身近にあることを知っていただくために開催しているものです。

当日は、高校生や一般の方々10名が訪れ、各科の概要説明及び訓練風景の見学と職業訓練を体験しました。

自動車整備科では、エンジンの組立て、大型車及び乗用車のタイヤ脱着などの体験やエアバッグの展開実演を、オフィスビジネス科では、パソコン検定問題体験や年賀状作成を、溶接科では、電気溶接機などを使った溶接体験を実施しました。

体験後のアンケートでは、「社会人として働くために必要なことを、何でも、しっかりと教えていただけると確信しました。」など、とても参考になったとの回答を多数いただきました。



(年賀状作成体験中の高校生と一般見学者)



(乗用車のバンパー取り外し作業に挑戦中の  
中学生)

## 救急フェア2015を開催しました

(気仙沼保健福祉事務所)

9月5日(土)に『救急フェア2015』をイオン気仙沼店で開催しました。

このイベントでは、9月9日の救急の日及び救急週間(今年度は9月6日～12日)の周知と、救急医療への正しい理解と普及啓発を図るため、イオン気仙沼店の協力を得て、関係機関と共催で毎年実施しております。

今年は気仙沼向洋高校の森谷優輝さんと三浦拓馬さんが一日救急隊長に委嘱され、消防本部の救急救命士の指導を受けながら、AEDを使用した心肺蘇生法などを学びました。

また、ホヤぼーやとオクトパス君またみやぎ消太くんも参加し、救急医療や応急手当の普及啓発活動、心肺蘇生法の実技講習を実施しました。

そのほか、消防車両等の展示や記念撮影、献血、保健師による健康相談を行い、多くの方々に御参加いただきました。



(ホヤぼーやも救命実技)



(手ぬぐいを使ってストレッチ)



(気軽に話そう, 健康相談)



(チームキャラクターたちが盛り上げてくれました。)

## 親子体操セミナーを開催しました

(気仙沼保健福祉事務所)

9月12日(土)気仙沼本吉総合体育館にて、親子体操教室を開催しました。

宮城県はメタボリックシンドローム該当者及び予備群をあわせた割合が5年連続全国ワースト2位であること、肥満傾向児の割合も高いことから、幼児と小学校低学年のお子さんとその保護者を対象に実施したものです。

参加者は、講師である89ERSチアーズの指導のもと、来場者にプレゼントされた手ぬぐいを使ったストレッチや音楽にあわせて行うジンギスカンダンスを楽しみました。また、仙台89ERSのチームキャラクターのティナとむすび丸、そしてホヤぼーやも遊びに来て、会場を盛り上げてくれました。みなさんも普段からからだを動かしてメタボを予防しましょう！

©SENDAI 89ERS/bj-league

## ねぎ先進地視察研修会で共同調製施設の運営を学びました

(本吉農業改良普及センター)

平成27年9月8日から9日にかけて、気仙沼市のねぎの担い手として期待される波路上営農組合と大谷営農組合が合同で、先進地視察研修会を開催しました。本研修は、共同調製施設の運営について学ぶことを目的とし、両営農組合員と普及センターほか関係機関16名で、山形県新庄市のJA新庄もがみが管理するねぎ共同調製施設と、秋田県横手市のJA秋田ふるさとが管理する果樹共同選果施設を訪問しました。

ねぎ共同調製施設では、皮むき機の作業能率や、1日の出荷箱数、必要とする雇用人数等を研修しました。果樹共同選果施設では、選果ラインの仕組みや、生産者ごとの出荷量・販売額の集計方法を研



修しました。

加えて、岩手県北上市(JAいわて花巻管内)のねぎ栽培ほ場を訪問し、生産者から直接、作型や病害虫対策、除草対策等を伺いました。本年度から作付を開始している大谷営農組合の組合員は、悩みの一つだった除草対策について理解を深めたようです。

普及センターでは今回の研修内容を活用しながら、順次整備される予定の共同調製施設の効率的な運営や、ねぎの生産安定化に向けた支援を継続していきます。



(共同調製施設の視察)

### りんご加工講習会でサワールージュのスイーツづくりを行いました

(本吉農業改良普及センター)

平成 27 年 10 月 14 日、気仙沼市内のクッキングスタジオで、JA南三陸果樹生産部会主催のりんご加工講習会が開催され、当日は部会員6名とJA南三陸気仙沼農産物直売所「菜果好(なかよし)」の加工部会員3名が参加し、サワールージュのスイーツづくりを行いました。

サワールージュは、10月上旬に食べ頃になる赤色で酸味が強く、スイーツ材料に最適な宮城県が育成したりんご品種です。JA南三陸果樹生産部会員 13 名が平成 23 年から栽培に取り組み、本年は260kgが収穫され、仙台市内の県キャンペーン参加洋菓子店や気仙沼生まれのコーヒーショップに提供されました。

今回は、本吉農業改良普及センター職員が講師となり、アップサイドダウンケーキ、スムージー、焼きりんご、ジャムを使った料理などを紹介しました。参加者は、サワールージュの魅力をおなかいっぱい味わうこ

とができました。今後、サワールージュのスイーツが直売所に並ぶことが期待されます。

普及センターでは、今後もサワールージュの栽培と加工品づくりを支援していきます。



(講習会の様子)



(サワールージュのアップサイドダウンケーキ)

### (株)椎彩社でしいたけの加工品試食会が開催されました

(本吉農業改良普及センター)

南三陸町でしいたけ栽培に取り組んでいる(株)椎彩社の加工品試食会が、去る10月30日に開催されました。

(株)椎彩社は、今年度県の農林漁業者等地域資源活用新事業を活用して生産力向上や加工品開発に取り組んでいます。加工品開発では、子供にもしいたけを美味しく食べてもらえるよう、地元の子育てマグループに協力をもらいレシピを考案しました。

試食会では、「キノコのしいたけ餡詰め」「キノコのはさみ揚げ」「キノコの串カツ」「椎茸入りシャークナゲット」「椎茸シフォンケーキ」「たらすもづらップ」の6品が提供されました。

参加者は、試食しながらそれぞれの加工品のコンセプト・ターゲット、想定販路などの説明を受け、評価

シートに採点を記入し、味や販路、ラッピングなど多岐にわたる意見をいただきました。

今回の評価を受け、11月にはフードコーディネーターを呼んで商品としてのさらなる磨きをかけました。

普及センターでは、加工技術や地域連携などの指導を通じて、今後も地元農産物の加工品開発の取組を支援していきます。



(試食会の様子)



(たらすもづラップ)

### JA 南三陸果樹生産部会の視察研修会が 開催されました

#### ふじの収穫が11月に始まりました

(本吉農業改良普及センター)

平成27年10月23日、JA南三陸果樹生産部会主催で部会員9名が参加し、宮城県農業・園芸総合研究所果樹ほ場で視察研修会が開催されました。JA南三陸果樹生産部会は、気仙沼市、南三陸町の果樹生産農家24戸で組織され、主にりんご、なし、ももを栽培しています。

当日は、果樹チームの研究員を講師として、本年の気象とりんごの生育、りんごの有望な中晩生品種、

ジョイント栽培についてはほ場を見学しながら説明を受けました。部会員は、これからの品種の導入や栽培管理について参考にしていました。

11月から、ふじの収穫が始まっています。8月上旬までの高温や8月中旬以降の低温など難しい栽培環境でしたが、生産者の努力により着色良好で例年より果実が大きい状況です。収穫は蜜入りや甘みなど完熟を確認して行われ、3月まで個別や地元の直売所で販売されます。

普及センターでは、今後も防除やせん定の指導を通じながら、南三陸の果樹生産を支援していきます。



(研修会の様子)

### ニホンジカの生息調査を行いました

(気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

管内ではニホンジカの生息が拡大しており、農作物被害等が深刻な問題となっております。その生息状況を把握するため、10月に2種類の生息調査を実施しました。

まず、6日に気仙沼市農林課と合同で夜間ライトセンサスによる調査を行いました。これは、夜間に懐中電灯で農地や山林を照らし、ニホンジカの目を光らせて生息を確認する調査です。今回は鹿折地区と唐桑地区で実施しました。昨年度も実施した鹿折地区では延べ20頭を確認しましたが、初の実施となった唐桑地区では1頭の確認にとどまりました。

さらに、20日と21日には、林業技術総合センターと合同で山林のニホンジカの糞塊を数え、生息密度を計測する調査を行いました。八瀬地区と唐桑地区の計4箇所で行いましたが、うち3箇所が増加傾向



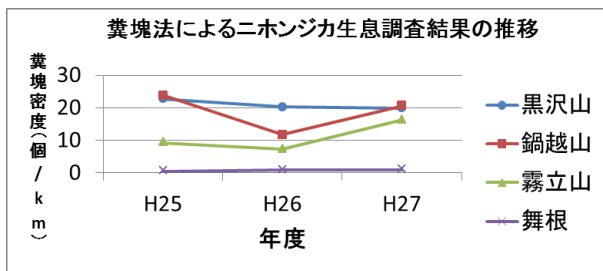
にあることが分かりました。

駆除隊によるニホンジカの捕獲が行われておりますが、生息数は減少している様子は見られず、さらなる対策の必要性を感じる結果となりました。



(夜間に農地を徘徊するニホンジカ)

糞塊密度(個/km)					
	黒沢山	鍋越山	霧立山	舞根	糞回数合計
H25	22.7	23.8	9.3	0.5	218
H26	20.3	11.8	7.2	0.9	207
H27	19.9	20.6	16.2	1	289 (暫定値)



(糞塊調査の結果)

### 南三陸森林管理協議会が県内初のFSC国際森林認証制度に基づく森林管理認証を取得しました

(気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

南三陸森林管理協議会(会長:佐藤久一郎氏)が、県内初となるFSC国際森林認証制度に基づく森林管理認証(FM認証)を10月7日付けで取得し、11月2日にFSCジャパンの太田猛彦議長から関係者に対する認証状の伝達が行われました。

今回は、南三陸町、大長林業、(株)佐久、慶應義塾の4名が所有する1,314ha(町内森林面積の約1割)の森林を対象にした森林管理に関する認証で、FSCの森林管理に関する10の原則と56の基準に沿

って審査が行われ、適切に森林管理が実施されていることを認証されたものです。今回の認証では、木材の加工流通に関する認証(COC認証)を丸平木材株式会社が取得し、両者が協力して南三陸町の復興を林業・木材加工の立場から推進していくこととしています。伝達式では、FM認証取得者を代表し、南三陸町佐藤仁町長から、「森林のFSC認証を契機に、海の認証制度によるカキ養殖のASC認証取得を支援し、森・里・海の有機的なつながりを生かした南三陸町の復興への取組を全世界に発信する。発信の第一歩としてFSC認証に基づく南三陸町産材によるFSC製品を庁舎建設に積極的に活用し、認証製品のモデル施設としてPRしていく。」という決意表明がありました。

当事務所では、関係者とともFSC認証材の製品化や庁舎建設への安定的な供給体制の確立に向けた支援をしていきます。



(認証状を伝達された関係者)

### 秋さけの水揚げが行われています

(気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

管内の沿岸域では秋さけの水揚げが行われています。10月下旬の気仙沼市と南三陸町の魚市場における水揚げ尾数は353,014尾(前年同期比69%)、水揚げ金額約4億8千万円(前年同期比71%)となっています。また、管内の河川での捕獲尾数については6,022尾(前年同期比78%)となっており、沿岸での漁獲、河川での捕獲ともに前年を下回っています。東日本大震災は、さけ稚魚放流盛期の直前に発生し、管内の多くのふ化場が壊滅的な被害を受けまし

た。今年度は回帰するだけのほとんどが震災年あるいは震災後に放流した稚魚によるものであり、これらの稚魚の放流数は震災前(平成 21 年度)の約6割から8割と少ないため、今後の来遊尾数の減少が懸念されています。

このような厳しい状況ではありますが、南三陸町が整備した小森ふ化場が完成し、落成式が 10 月 19 日に行われました。小森ふ化場は震災後に県内で初めて完成したふ化場で、500 万尾の稚魚収容能力を有しており、水尻川ふ化場と合わせると最大 1,000 万尾の放流が可能となり、本県のさけ資源増大に大きく寄与するものと期待されます。



(気仙沼魚市場に水揚げされたさけ)



(完成した小森ふ化場)

## 平成 27 年度第 36 回少年の主張気仙沼・本吉地区大会が開催されました

(気仙沼地方振興事務所 総務部)

平成 27 年度第 36 回少年の主張気仙沼・本吉地区大会が、9 月 11 日に気仙沼市立条南中学校を会場として開催されました。

当大会は、広い視野と柔軟な発想力、創造性などとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらおう力を身に付けることを目的に毎年開催しております。

当日は、気仙沼・本吉地区の各中学校から推薦された 14 名が、会場となった条南中学校生徒の皆さんや参集いただいたご父兄の皆さんの前で、学校生活・家庭での様々な体験などをもとにした、これからの自分の生き方や社会に対する前向きな想いを熱く語りました。

自分が今なすべき事、未来への夢や希望を力強く主張する姿は、聴衆に大きな感動を与えてくれました。

厳正な審査の結果、最優秀賞には「未来へつなぐ小さな一歩」を発表した気仙沼市立面瀬中学校(3 年)佐藤彩佳さんが選ばれ、当地区を代表して県大会に出場することになりました。

なお、佐藤さんは9月 18 日に開催された県大会では、地区大会と同様に、その実力を遺憾なく発揮され優良賞の荣誉に輝きました。



(大会終了後の集合写真)

## 村井知事が管内の復興現場を訪問しました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

10 月 8 日に村井知事が気仙沼市及び南三陸町で復興に前向きに取り組む企業を訪問しました。

今回の訪問は、平成 27 年度知事の「みやぎの復興現場」訪問事業によるもので、今年度は石巻地域、仙台地域に続いて3回目となり、当地域を同事業で訪問するのは平成 24 年度以来となります。



当日は、はじめに、南三陸町の丸平木材株式会社を訪問し、震災から復旧した工場や製品を視察したほか、南三陸森林管理協議会が県内初となる国際森林管理認証を取得したことを受け、認証材を活用した今後の事業展開等について説明を受けました。

午後には、気仙沼市の株式会社足利本店潮見町工場を訪れ、HACCP 認定を受けた工場内での作業の様子を視察したほか、気仙沼水産資源活用研究会が取り組む未利用水産資源を活用した商品開発についての説明と併せて、研究会メンバーとの意見交換も行われました。

村井知事は、復旧・復興に向け努力する両訪問先の取組を高く評価して、県として今後も支援していく意向を示しました。

また、現場訪問の合間には、気仙沼合同庁舎と南三陸支所において職員督励を行い、村井知事は職員一人一人と硬い握手を交わしました。



(説明を聞く村井知事)



(県職員と握手を交わす村井知事)

## 酒米の稲刈りが行われました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

10月3日に気仙沼廿一地区で、酒米サポータークラブによる酒米の稲刈りが行われました。

酒米サポーターズクラブは、廿一地区で気仙沼の地酒になる酒米「蔵の華」作りを手伝い始めて今年で14年目を迎えます。当日は、約30名が参加し、鎌で刈り取る「稲刈り」と、稲を干す「はせがけ」の作業が行われました。田植えの際には手のひらほどだった稲が、腰ほどの大きさまで成長しており、参加者のみなさんは、一株ずつ丁寧に稲刈りを行っていました。

2月には「新酒を楽しむ会」も予定されており、今から出来上がりが楽しみです。

お問い合わせは下記まで。

### 【問い合わせ】

酒米サポーターズクラブ事務局(気仙沼市産業部 農林課農政係)

電話:0226-22-3439



(たわわに実った稲穂)



(稲刈り後はみんなではせがけ作業です)

## 南三陸米の図画コンクールと新米試食会が 行われました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

10月24日、JA南三陸本吉支店で、南三陸地産地消推進協議会の主催による南三陸米の新米試食会と第11回南三陸米図画コンクール表彰式が行われました。

「南三陸米」は、JA南三陸管内で栽培された品種「ひとめぼれ」の一等米のみを厳選したブランド米です。今年の南三陸米は、栽培期間中の7月、8月の猛暑、9月の大雨等により生育が心配されましたが、品質・味ともに良いお米が収穫されました。

初めに行われた南三陸米図画コンクール表彰式では、「田んぼの生き物」のテーマで、JA南三陸管内の小学生から寄せられた計99点の応募作品の中から、18点の入賞作品が選ばれ、入賞者には、表彰状と南三陸米などの記念品が授与されました。その後の新米試食会には、生産者や販売関係者、図画コンクールの入賞者とその家族も招待され、「南三陸米」の新米や管内の野菜や果物などの美味しい農産物を堪能していました。



(みんなで南三陸米の美味しさを堪能中です)